

「ふくし学習会」ダブル佐藤先生と（町社協）と体験

□まつ

みんながそろろうのを、静かに待ちます。



08/March/2017

中原小学校

多目的ホール

□「な」かばる 井先生のお話です。今日の学習は「な」んだらう。

この前、目のはたらきやしくみ、見えづらい方の気持など、知らないことを教えてもらいました。

今日は、まったく見えない人のこと、耳が聞こえづらい人のことを、体験をとおして一緒に勉強しましょう。

□ゲストティーチャー紹介

南小国町社会福祉協議会 ボランティアセンターからおいいただきました、佐藤新一郎さんと佐藤圭太さんです。

子どもデイサービスや、クラブで顔見知りの子から、「しんちゃん!」「けいたさん」と呼ばれていました。

「ダブル佐藤です!」と意気の合ったお二人。学校に到着されてすぐから、たくさん持ち込まれた体験の道具を、多目的ホールいっぱいセッティングされました。

□な「か」ばる（考える） 佐藤新一郎さんから「目的」のお話

「2時間をふくし学習にくださってありがとうございます。」と、1時間1時間の『授業』を大切に思う気持ちを一番に!気がひきました。

「わたしたちのまわりには、いろいろな人がいます。自分とちがうところがある人も。そのちがいをよ〜く知ろう。そして体験を通して、相手の立場や、自分のできることを、一緒に考えましょう。」

□な「か」ばる 佐藤圭太さんから つけてみよう「アイマスク」

まずは全員アイマスクをつけます。4グループに分かれて・・・

①じゃんけん

自分が何を出したかはわかるけど、となりの子は何をだしたのかな?自分は勝ったかな、負けたかな?何を出したか声で教えてくれても、となりの班の声とかぶって、よく聞こえません・・・

②おりがみ

ゆっくりと、時間をかければ、なかなかうまい。「どうしてできるの?」とたずねたら、「折り目をはっきりつけるとわかります。」と。

校長先生もチャレンジ!「あら、上手ですね!」「そうね?ぼくね、マージャンパイは指先でわかるよ。」だそうです・・・



③お水を紙コップに入れて飲む

水とお茶のペットボトルがあります。

どちらがお水か。さわる、におう、そして、紙コップに注ぐのもなかなか上手。でも、ああ!!つぎすぎ!飲むときは、服がびっちょり・・・



④お金を278円

小銭入れから一枚一枚さわりながら、これはえっと・・・穴が開いてるから5円?ぎざぎざがある!えっとこれは100円?いや10円かな?ゆっくり一枚一枚・・・時間がかかるけど、できています。



⑤上靴をぬいではく

班のみんなのうわぐつを、ぬいでならべました。

その中から、自分のを探すのですが・・・さわる、はいてみる・・・やっぱりおうか???目が見えない方はきっと、くつをぬいでも、そのへんにおいたりはしないだろうな・・・



⑥歩行体験



2メートル幅くらいの道ができています。

ナビ 「こっちこっち」

アイマスク「こっちじゃわからん、右ね左ね？」

ナビ 「前、いや左か・・・！」

足元のところどころにペットボトル

があり、ぶつかってたおしたり、こわくてすすめなかつたり。

工夫して、足をあげずにすり足をして進んだ子もいました。でも、「白杖があると、それで確かめながらすすめます！」と。

3時間目が終わりました。休み時間になりましたが、子どもたちはホールを離れず、体験を続けていました。

□な「か」ばる つけてみよう「イーマフと耳せん」

班ごとにまるくなって、好きな動物など、テーマトークをしました。順番に、イーマフと耳せんをつけて。

つけている人は、聞き取りにくいので、話している人の顔を一生懸命見えています。口が見えるように自然と、グループはみんなとてもくっついてきていました。



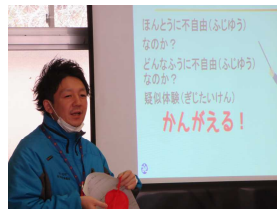
□なか「ば」る 伝え合い 中原アイトーク (伝え合い 愛)

圭太さん「アイマスクやってみてどうだった？」

子 「こわかった。」「不便だった。」「時間がかかった」

圭太さん「でも、どう？できたやろ？」

お金は、穴やぎざぎざなど、社会が考えた、見えなくても判別できる方法に、触れて気づきました。



折り紙は、わりと上手に、飛行機や鶴やハートができました。少し時間

はかかるけど、練習すればできないわけじゃないことを体感しました。

「アイマスクをして歩くのは?」「こわかった。杖を使った方が歩きやすかった。どこになにがあるかわかる。」

「イーマフと耳せんをはめると?」「何を言っているのかわからない。」

「でも、違う感覚器を余計つかうと、できないわけじゃないよね。そうやって自分でこうしたらできる!という方法を見つけた人もいたし、ある班では、高学年の子が、この子はなしているよ!と、教えていたので、イーマフをつけていてもわかりやすかったと思うよ。

□なかば「る」(ふりかえる)

新一郎さん「意外とできたね。コップに水が入るのを、目が見えない人は、手に感じる重さで量をはかったり、他の感覚器を使っているんだよ。常に努力して生活してるのが、すこ～しわかったかな。時間がかかっても、できるんだ。ただ、危険を察知することは遅くなる、または気づかないこともあるのです。

「聞こえづらい人も見えづらい人も、みんなかわらない。おんなじだよ。いっしょにべんきょうしたい、いっしょにあそびたいんだよ。」



近くにその人がいたら・・・身近なところで、自分にできることを考えました。

また、点字ブロック 手話 光るチャイム 盲導犬、聴導犬、牛乳パックのしるしなど、社会が考えた工夫も教えてもらいました。

↑「最後の質問です。困っている人がいたら、勇気を出して自分から自分ができることを手伝ってあげられるかな?」

と、2時間の体験を終えた、子どもの顔を見る佐藤さん(ご自身も、フルマラソンの伴走をされています)の背中には→「あなたの笑顔がわたしの元気」とありました。

ダブル佐藤さん、ボランティアセンターの方、ありがとうございました。

『ふ』ふだんの『く』くらしの『し』しあわせ♡



